

新時代のスペシャルティーカーを目指して。

<ヴェゼル>の開発にあたり、最初に思い浮かべたのは「スペシャルティーカー」という言葉でした。

1970年代から90年代にかけて人気を博したスペシャルティーカーは、ドライバーを主役とした室内と美しいスタイリングで、当時の主流であったファミリーセダンとは異なる魅力を放っていました。だからこそ、単なる移動の道具ではなく、豊かで上質な暮らしのパートナーとして、多くの人々に支持されたのだと思うのです。

こんにち、日本の自動車産業は成長し、優れたクルマを合理的につくれるようになりました。しかし、所有する喜びや使うほどに得られる満足感は、合理性や効率の追求だけでは生まれません。開発では、「必要かどうか」ではなく、「魅力的なクルマとはなにか」を基準に、これまで上級クラスにのみ採用されてきた技術や装備を惜しみなく取り入れました。

社内には、「本当にそこまでするつもりか!？」という声もありましたが、私たちはけっして妥協することなく、Hondaの常識も慣例も打ち破って開発を進めました。「新しい時代のスペシャルティーカーをつくりたい」、「ちょっといい程度ではなく、けた違いに魅力的なクルマをつくろう」、という信念があったからです。その信念は、徐々に、そして確実に社内外の人々のところを動かし、これまでの概念を超える、「けた違いに魅力的なクルマ」を生み出しました。

私たちの夢を凝縮した<ヴェゼル>が、お客様の夢を乗せて走り出すことを願って、日本に、そして、世界に送り出します。

開発責任者 板井 義春



板井 義春 (いたい よしはる)
(株)本田技術研究所 主任研究員

1987年、(株)本田技術研究所入社。
ボディ設計、プラットフォーム開発を経て、
アコードを中心に数々の車種開発にたずさわる。
2007年、5代目インスパイアのLPL代行を担当。
今回、ヴェゼルのLPLを務める。
趣味は音楽鑑賞、ドライブ。愛車は2代目FIT。